



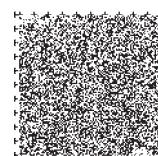
“暮らしの未来”を デザインする 活動報告



イオンモール株式会社

本冊子には、目の不自由な方向けの音声コード「Uni-Voice」を掲載しています。

- 専用の読み上げアプリまたは装置で読み取ることで内容を音声で聞くことができます。
- 触覚で音声コードの位置を見つけられるよう、ページの端に切り欠きを入れています。



AEON MALL 2030年ビジョン

イオンモールは、 地域共創業へ。



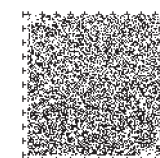
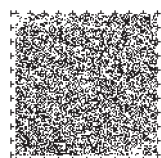
集まり、交わり、支え合って生きる

古来から、私たちは身を寄せ合い、集落をつくり、獲物を分け合い、知識を共有し、文化を育んできました。やがて農耕が始まり、定住が進むと、市場が生まれます。市場は単なる売買の場ではなく、人々が出会い、情報を交わし、互いを支え合う社会の中心でした。

ヨーロッパでは、広場が都市の核となり、商人たちが行き交い、劇場や議会が生まれ、市民の生活や政治が交差する場となりました。アジアでも、寺院の境内や門前町が商業と信仰の交わる空間として地域の暮らしを支えてきました。こうした「人が集まる場所」は、どの時代においても、経済や文化、社会の発展に不可欠な役割を果たしてきました。

そして21世紀。イオンモールは、単なる商業施設ではなく、新しい「現代の広場」へと変容しています。家族や友人と過ごし、遊び、働き、健康を育み、防災拠点や災害時の避難場所としても機能する。ここでは、商品を手に入れるだけでなく、地域の未来をともに創ることができます。地産地消のイベントを通じて地元農業の魅力を再発見したり、地域のアスリートやアーティストが活躍の場を得たり、新たな文化が生まれたり、子どもたちが実際に手を動かしながら学んだりする場にもなっています。

私たちは、常に「集まる場所」を中心に社会を築いてきました。人が集まることで、新しいアイデアやビジネスが生まれ、地域やコミュニティは発展していきます。イオンモールは、かつての市場や広場のように、地域社会の中心として、人が集い、支え合い、新しい価値を生み出す場として、地域とコミュニティを育んでいきます。



イオンモールは、 地域とともに「暮らしの未来」をつくる Life Design Developerです。

人口減少や伝統文化を継承することなど、現代の地域社会には多くの課題があります。

だからこそ、今新しい生き方のデザインが必要なのだとイオンモールは考えます。

そしてそれは、企業、行政、教育機関などが垣根を越えて協力し、力を合わせることで実現していく。

イオンモールは、Life Design Developerとして、

これからも地域とともに「暮らしの未来」をつくるための取り組みを続けます。

共創パートナー

地域の声をともにかたちにする

専門店

お客さま

従業員

地域
コミュニティ

産学・研究
機関

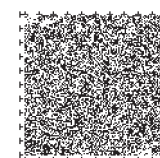
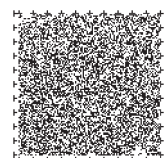
多様な
企業

防災
関係者

行政・
自治体

地域
スポーツ
関係者

医療・福祉
関係者



“暮らしの未来”をつくる

広がるイオンモールの活動ストーリー

P.2 AEON MALL 2030年ビジョン

P.4 経営理念

01

地域 | パートナースHIP・文化・コミュニティ

地域の自然や風習に親しみ
コミュニティの輪を感じながら
子育ても文化も支え合う未来

[活動紹介]

- めいわ大盆踊りまつり&産学官民連携夜間防災訓練 | イオンモール明和
- 子育て支援拠点施設「ときめっく」 | イオンモール土岐
- 盛岡大学・盛岡大学短期大学部との協働取り組み | イオンモール盛岡
- 阿波踊り特別公演 | イオンモール徳島
- イオンモール白山自然学校 | イオンモール白山

02

地域 | グローバル

アートやスポーツで心身を育み
世界のどこに暮らしていても
希望のある将来像が描ける未来

[活動紹介]

- 江夏の日常に無形文化遺産を | イオンモール武漢江夏
- 寧西街合同就職説明会 | イオンモール広州新塘
- 全国ムエタイチャンピオンシップ2024 | イオンモール ピンズオンキャナリー
- カンボジア王立芸術大学との文化芸術振興に向けた取り組み | イオンモール ミエンチェイ
- コミュニティ・クラス(文化の学習やスポーツ体験) | イオンモール ジャカルタガーデンシティ



03

環境

自然を感じ、学び、体験し、
地域の生態系や資源循環に
責任を持つ人が増える未来

[活動紹介]

- いきもののおうちをつくって学ぼう | イオンモール常滑
- つながる庭プロジェクト〜田んぼbioトープ〜 | イオンモール新利府
- こどもSATOYAMAプロジェクト | イオンモール多摩平の森
- サステナドライブ | イオンモール高岡

04

暮らし | Well-being

スポーツや運動を通じて
幅広い世代が健やかに団結し、
誰もが絆を感じられる未来

[活動紹介]

- 「北國ハニービー石川」のホームへ | イオンモール新小松
- 扶桑町走ろう会 | イオンモール扶桑
- 恵陽 済生会 富山県済生会高岡病院との取り組み | イオンモール高岡
- ふだんクエスト | イオンモール羽生
- その場でわかる! 歩行チェックチャレンジ! | イオンモール草津
- 懐話ふだ&FC刈谷ウォーキングサッカー教室 | イオンモール東浦



05

暮らし | 社会インフラ

もしもの時に備える防災力と
日常を支える公共サービス。
強くしなやかなインフラの未来

[活動紹介]

- 生成AIと実空間メタバースによるデジタル避難訓練 | イオンモールいわき小名浜
- 飾磨小学校合同 命を守る! 自助・共助の避難訓練 | イオンモール姫路リバーシティ
- レイクタウン防災フェス2024 | イオンレイクタウン
- 広島市段原地域包括支援センター | 広島段原ショッピングセンター
- 佐野新都市行政サービスセンター | イオンモール佐野新都市
- 大垣市南部サービスセンター | イオンモール大垣
- つがる市立図書館 | イオンモールつがる柏
- 富津市立図書館 | イオンモール富津

06

ひと

誰もが自分らしく働きながら
成長し続けられる環境で、
安心してキャリアを築ける未来

[活動紹介]

- イオンモールアルムナイネットワーク | イオンモール採用・育成部
- アスリートセカンドキャリア採用 | イオンモール採用・育成部
- 従業員休憩室 | イオンレイクタウンkaze/イオンモールいわき小名浜

07

全国各地のイオンモール

地域を超えたムーブメントが、
日本や世界で共鳴し合う未来

P.52

[活動紹介]

- こども将棋王決定戦
- 全国高等学校書道パフォーマンスグランプリ
- イオンモールのクールシェア・クーリングシェルター指定登録
- まちの発電所
- イオンモールウォーキング

P.55 代表挨拶

会社概要

まちの ACTION!

お客さまとつくる、サステナブルストーリーを。

イオンモールがお客さまと推進する
地域課題に関する取り組み

イオンモール
まちの発電所
Mall power plant

「まちの発電所」は「モールで使う電力は自分たちでつくる」という地産地消型の再生可能エネルギー創出の取り組みです。

イオンモール
まちの資源循環
Circular mall

「まちの資源循環」は、ごみのごみではなく資源として活用できる社会をめざして環境課題の解決に努める取り組みです。

イオンモール
まちのいきもの+
Nature mall

「まちのいきもの+」は、緑あふれる環境に配慮した施設づくりを行い、いきものが共生する豊かな未来をめざした取り組みです。

イオンモール
まちのコミュニティ
Regional community mall

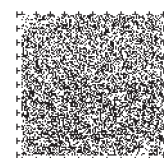
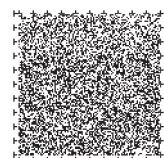
「まちのコミュニティ」は、地域の皆さまと一体となって、そのエリアにしかない魅力や特色を未来につないでいく取り組みです。

イオンモール
まちの防災
Resilient mall

「まちの防災」は、地域の防災拠点としての役割を果たすための取り組みです。地域が被災した際にも復興拠点としての役割を担います。

イオンモール
まちの健やか+
Health & Wellness mall

「まちの健やか+」は、ヘルス&ウエルネスプラットフォームの構築を目指して、心と身体が健康になる豊かな暮らしを継続してサポートする取り組みです。



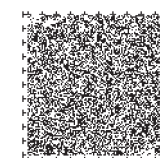
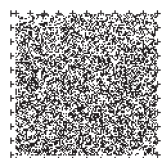
01

地域 | パートナーシップ・文化・コミュニティ

地域の自然や風習に親しみ コミュニティの輪を感じながら 子育ても文化も支え合う未来

[活動紹介]

- めいわ大盆踊りまつり&産学官民連携夜間防災訓練 |
イオンモール明和(三重県多気郡明和町)
- 子育て支援拠点施設「ときめつく」 | イオンモール土岐(岐阜県土岐市)
- 盛岡大学・盛岡大学短期大学部との協働取り組み | イオンモール盛岡(岩手県盛岡市)
- 阿波踊り特別公演 | イオンモール徳島(徳島県徳島市)
- イオンモール白山自然学校 | イオンモール白山(石川県白山市)



めいわ大盆踊りまつり&

産学官民連携夜間防災訓練

イオンモール
まちのコミュニティ
Regional community mall

伝統を楽しみ防災に目を向けながら
まちという大きなコミュニティを強くする。

どんなプロジェクト？

明和町、明和町消防団、明和町社会福祉協議会、三重県立明野高等学校などと協働し、「まつり」と「防災訓練」を同日に実施しました。



めいわ大盆踊りまつり

地域に伝わる「明和音頭」を踊りました。町長や自治会長も参加、夜まで盛り上がりました。

ここがユニーク！

地域伝統の盆踊りで一体感を醸成し、その集客力を活かして、若い世代の防災意識向上の機会につなげました。

開催施設：イオンモール明和

オープン以来、地域の皆さまが「明和町は一つの大きなコミュニティ」と感じられる地域づくりを、地域の皆さまとともに進めていくことを大切にしています。

基本商圏：車25分圏

約14万世帯 約30万人

出店店舗数：約82店舗(専門店舗数)

敷地面積：約140,000㎡

駐車場台数：約3,100台

オープン日：2001年7月21日



開催地域：三重県多気郡明和町

人口22,000人。伊勢湾に面した、なだらかに広がる伊勢平野に位置し、農・水産業を中心に発展。住みたい、住み続けたい、豊かなところを育む、歴史・文化のまち明和を将来像として「みんなでつくるまちづくり」を基本理念としています。



イオンモール明和
オペレーションマネージャー
牛谷 昌弘

実行委員会
委員長
高橋 真衣 さま

明和町 防災安全課
課長
荒木 隆伯 さま

イオンモール明和
オペレーション担当
大石 里加

明和町の子どもたちに
盆踊りを体験させてあげたい

荒木さん：防災安全課では、防災、防犯、交通安全、公共交通、自治会について所管しています。特に明和町には津波被害が想定される沿岸地域があるので、町全体で防災・減災力の向上に力を入れています。ですが、防災訓練の参加者が少なくなってきたという課題を感じていました。そんな時に、高橋さんが前例のない企画を持ち込んでくれました。

高橋さん：私は明和町が地元で、たこ焼き屋をしながらボランティア団体「ココツナ〜Share Hearts〜」の代表を務めています。明和町には伊勢神宮とも関わりの深い伝統行事「斎王まつり」があり、年に一度開催されるこのお祭りには町内外か

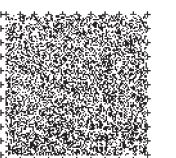
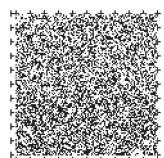
ら約3万人もの人々が訪れます。伝統文化を通じて地域が一つになっている町とも言えるはずなんです。でも、そんな町に育ったはずの自分の子どもたちが「盆踊り」を知らないし踊ったこともない。それに気づいて「これはなんとかしないと」思ったのがこの「めいわ大盆踊りまつり」の企画の始まりです。

牛谷：きっかけは、母親としてご自分のお子さんたちに夏の盆踊りを体験させたいという思いだったんですね。

高橋さん：まず仲間5人と実行委員会をつくりました。さらにその中の1人から「盆踊りに防災イベントをプラスしたら、若い世代も集客できて防災の大切さを伝えられるんじゃないか」というアイデアが出てきて。「いいね、いいね！」となり明和町の

防災安全課に企画を持ちこみました。

荒木さん：最初に聞いた時、とても面白いなと思いましたね。お祭りと組み合わせることで、縁日の出店ブースで楽しみながら防災体験ができる。さらに、夜間の防災訓練の実施にも課題を感じていましたので、盆踊りと組み合わせることでそれも実行に移せる。防災訓練に積極的に参加して取り組んでもらう機会としては最適なアイデアだと思いました。ただ一方で、そもそも盆踊りにそんなに人が集まるのか!?という不安感も(笑)。



明和町 × めいわ大盆踊りまつり&産学官民連携夜間防災訓練実行委員会 × イオンモール明和

イオンモールで盆踊り!?
試行錯誤した4ヶ月間

高橋さん:幅広い世代の皆さんが参加しやすく、ともに明和町の伝統や文化を肌で感じ、新たな交流が生まれるようなイベントにしたいと場所を探していたんです。たまたま知り合いを通じてイオンモールさんに企画が伝わり「OK」と。「えっ、本当にイオンモールで開催できるの?」と驚きましたね(笑)。企画自体に自信はあったんですが、まさか企業であるイオンモールが地元の行事に協力してくれるとは思っていませんでした。

荒木さん:私も同じ気持ちでしたね。イベントなどでスペースをお借りすることはありましたが、まさかここまで地域と向き合ってくれるのかって。

牛谷:私たちは明和町と防災協定を結んでいて合同避難訓練なども実施してきたので、本当に素晴らしい企画だなと感じました。

荒木さん:5月に産学官民で「めいわ大盆踊りまつり&産学官民連携夜間防災訓練実行委員会」を立ち上げて、8月18日の開催に向けて準備を進めましたね。防災の方は、消防署OBの方の意見も聞きながら具体化していきました。

牛谷:バランスが難しかったですよね。

防災意識は高めてほしいけれど、参加のハードルは高くしなかったのも、みんながやりたいことを持ち寄って、最終的に形にしていって感じです。

荒木さん:コンセプトが「楽しくやろう」でしたからね!

牛谷:人が来ないかもしれないという最初の不安が、日が迫るにつれて逆の焦りに。これはひょっとして大イベントになるかもしれないぞと。町民の方と話す、すぐに祭りの話になるという(笑)。安全に開催することが絶対なので、万全を期して警備体制も見直しました。

4,000名が来場!
盆踊りと訓練を通じて
広がった地域の輪

牛谷:そして当日、4,000名の方に来場いただきました!こんなに多くの方が楽しみにしてくれていたんだと感慨深かったです。地元消防団による消火器を使ったストラックアウトや社会福祉協議会の防災クイズとダンボール迷路などの防災ブースにも500名近い人が立ち寄り、あわせて実施した避難所体験訓練には約50名の地域の方が参加してくれました。

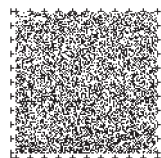
荒木さん:イオンモールの屋上駐車場は、津波緊急避難場所に指定しています。

夜間にスロープを上りながら「停電したら途中の道は真っ暗かもしれない」「それやったら懐中電灯がいるな」といった声がありましたね。災害はいつ起こるか分かりませんから、意義のある訓練ができました。



大石:イオンモールの専門店もブース出店というかたちでお祭りに参加していただき、想像以上の地域の盛り上がりを感じられたと喜んでいただきました。私たちイオンモールとしても、専門店の皆さんが普段から地域ともっとつながっていきたいという思いを持ってらっしゃることを知るきっかけになりました。今後は専門店の皆さんとも一緒に取り組める企画で、地域との橋渡しの役割を担えるのではないかと感じましたね。それから「働き方」という観点でも、明和町が地元ではないスタッフの方々も、自分が毎日働いている明和町という場所や住民の人柄をより深く理解するきっかけになったようで、仕事への意識に変化があったみたいです。

高橋さん:すごくうれしいですね! 明和町の住民だけでなく、明和町で働く町外の人たちにも意義のあるお祭りになっていたなら。当日の盆踊りでは「明和音頭」を鬼リビート(笑)。明和音頭保存会の皆さんには「暑いので最初の1時間だけで大丈夫ですよ」とお伝えしていたのですが、ずっと一緒に踊ってくださって、世代を超えたつながりを感じながら大きな踊りの輪が見られて大満足です。



明和町 × めいわ大盆踊りまつり&産学官民連携夜間防災訓練実行委員会 × イオンモール明和

小学校の統廃合が進む中
子どもたちに「地元」を
残してあげたい

高橋さん:この地域では、小学校の統廃合と校区の再編が進み、2023年に1校が閉校し2026年3月末までにさらにイオンモールがあるエリアを含む3校が閉校します。明和町には元々6つの小学校区があったのですが、今そこに通う子どもたちは、その地区をもう地元と呼べなくなってしまうかもしれない。だから子どもたちの地元愛を育むという意味でも、今この場所で開催できて本当良かったなと思っています。

荒木さん:明和町と一口に言っても沿岸部と内陸部などそれぞれの地区で特徴がありますから。小学校が統廃合されても、自分が生まれ育った地区に誇りを持ってほしいという思いがあります。

高橋さん:そんな思いもあって、お祭りの当日は「明和音頭を1回踊るごとに地区シールが1枚貰える」という企画を実施しました。それを「めいわ大盆踊りまつりのオリジナルうちわ」に貼って、シールが6地区分すべて集まったら、豪華景品が当たる抽選会に参加できる!という呼びかけをしたら、たくさん子どもたちが参加してくれました。

1回だけで終わらせない!
イベント翌日には次回の
準備が始動

荒木さん:子どもたちが明和町という地域の成り立ちを知り、世代を超えて住民たちと接点を持ちつながっていく。そのことが今回の盆踊りまつりの大きな成果だと思います。さらに防災安全という観点でも、多くの参加者に防災の啓発ができたことがありがたく、防災関連の会議でも「夜間訓練」について取り上げられるなどさまざまな波及効果がありました。「地域のためにできることは?」という熱い思いが大きな渦となり、結果につながったことがすごいなと思います。今回だけで終わらせたくないですね。

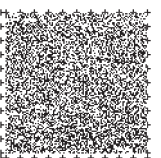
高橋さん:私の中ではイベントの翌日から始まっています!

牛谷:「2025年は、何月何日でいいですか」とすぐにメールをいただいて(笑)。今回、

高橋さんの「やりたい!」という信念をきっかけに始動しましたが、ほかの地域行事などでも中心的な役割を担う高橋さんの姿を目にしてきたので安心感が大きかったです。コミュニティの希薄化と言われる時代ですが、イベントを通じて明和町の絆の深さを実感することができました。今回、私たちも明和町のキーパーソンの皆さまと新たなつながりを育むことができましたので、より一層、地域活動で一緒にいきたいと考えています。

荒木さん:イオンモールは、明和町で一番人が集まる場所であり、地域のランドマーク。今回、地域への思いを知ることができたので、職場でも「イオンモールさんは、ここまでやってくれるんだよ!」と広めていきますね。
高橋さん:私も「イオンモールは明和町の大都会」と思いながら大きくなりましたから(笑)。真夏の開催なので熱中症対策として「無理せずイオンモールで涼んでください」と言えたのも安全運営の面でありがたかったです。

大石:今回、地域と連携しながら一つのことを成し遂げていく過程が勉強になりました。参加した専門店の方の喜びの声も聞くことができましたので、イオンモール社員だけでなく専門店の方と地域のつながりをつくるような活動もしていきたいです。



子育て支援拠点施設

「ときめっく」

イオンモール
まちのコミュニティ
Regional community mall

どんなプロジェクト？

子育て支援充実の実現に向けて、土岐市、NPO 法人、イオンモールが一体となり、イオンモール土岐内で子育て支援拠点施設「ときめっく」を運営。岐阜県内初となる当施設は年間20,000人の方にご利用いただいています。

子育てする人たちを孤独にしない。
支える人を支える場所をつくる。



ときめっく

親子が気軽に集える交流や遊びの場。親子で読み聞かせや読書ができる「えほんコーナー」や小さい子や赤ちゃんが遊べる「あそびのひろば」があり、専門スタッフによる子育て相談や子育て情報も発信しています。



開催地域：岐阜県土岐市

「美濃焼の街」として発展。高速道路網の結節点として大型商業施設や企業の進出が続き、交流人口が大きく増加。2025年に市制70周年を迎え「人と自然と土が織りなす交流文化都市」の将来像に向けて幸せを実感できるまちづくりを行っています。

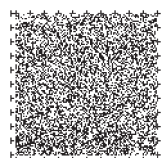
ここがユニーク！

ときめっく運営のほかに、イベント「絵本どうぞの会」や「ファミリーベース」を開催。2024年10月に開催した土岐市子育て応援イベント「ファミリーベース2024」には、1日でおおよそ6,000名の方に参加いただきました。

開催施設：イオンモール土岐

土岐南多治見 IC から北へ2kmと市内外からのアクセス性が良好。テラス席を設けた芝生エリア、温浴施設や大型エンターテインメント施設を設け「何度も訪れたくなる」新たなにぎわい拠点をめざしています。

基本商圏：車30分圏 10～12km圏内 約11万世帯 約35万人
出店店舗数：約140店舗(専門店舗数)
敷地面積：約203,000㎡
駐車場台数：約3,600台
オープン日：2022年10月7日



土岐市 × 特定非営利活動法人 Mama's Café × イオンモール土岐



特定非営利活動法人Mama's Café
理事長
山本 博子 さま

土岐市 健康福祉部
こども家庭課長 こども家庭センター長
辻野 まどか さま

イオンモール土岐
営業担当
鈴木 颯太

市に届いた保護者の声
きっかけで誕生
モール内の多機能型子育て
支援拠点施設

辻野さん：土岐市では少子高齢化が急速に進み、特に若い世代が安心して結婚、出産、子育てができる環境づくりが喫緊の課題です。こども家庭課では、土岐市に暮らす子どもとその保護者の方が「土岐市に生まれて良かった」「土岐市で子育てをして良かった」と思ってもらえる子育て支援に取り組んでいます。

鈴木：私たちはモール開業にあたり、そのような課題に対してイベントなどを通じた地域と連携した子育て支援を土岐市に提案しました。すると、一時的なものではなく「モール内に通年利用できる多機能型子育て支援拠点施設を設置できないか」と。さらに打ち合わせを重ね、土岐市との地域連携事業として了承を得て、子育て支援拠点施設「ときめっく」をモール内にオープンしました。
辻野さん：これは、市の子育て講座や市民意識調査で「土日に行ける屋内の子育て施設が欲しい」「子育てに悩んだ時に話せる場所が欲しい」「お買い物ついでに子どもを遊ばせたい」といった保護者の方のお

声がきっかけになっています。集客力があり好立地のイオンモールなら、ぴったりだなと感じました。

山本さん：そして、Mama's Caféが運営を受託しました。大型商業施設内に多機能型子育て支援拠点施設を設けるのは県内初ということで、大きな期待を感じながらのスタートでしたね！

辻野さん：庁内で了承を得るまでには苦労もありました(笑)。ですが、プレオープンから大変多くの方に来場いただけて、ニーズの大きさを実感しました。

「ファミサポ」事業を展開し、
子育て支援のマッチングを叶える

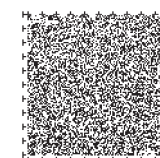
辻野さん：「ときめっく」は、子育て中の親子が集い交流できて育児相談もできる場、市として親子のニーズに対応した支援サービスにつながる場。さらにファミリー・サポートセンター事業と呼ばれる、地域における育児の助け合いをサポートする場としての役割があります。

鈴木：ファミリー・サポートセンター事業は、育児の支援を受けたい人と支援をしたい人をマッチングするというもの。Mama's Caféさんが専門とされていますね。

山本さん：はい。通称ファミサポは、こども家庭庁の支援事業です。996市町村(2024年度)で実施されています。はじめは市町村が直営で行っていたのですが、支援したい人を増やす難しさに直面し、私たちのような行動力を強みとするNPOなどに委託するケースが増えているようです。「ときめっく」では、利用方法の説明や会員登録ができる体制を整え、着実に会員数を増やしています。



共創パートナー
特定非営利活動法人 Mama's Café
岐阜県多治見市を拠点とし「子育て」をテーマにしたファミリーサポート事業やカフェ事業、イベント事業などを展開。土岐市から受託し、2022年10月から「ときめっく」を運営。



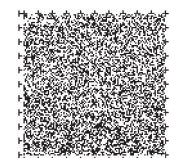


親子を「家庭の一步外に出す」 さまざまなイベントによる動機づくり

山本さん:私が大事にしているのは、親子を「家庭の一步外に出す」ということ。それが保護者の方を救い、虐待防止の一步になると思うのです。例えば、乳児を育てるママを想像してみてください。大きなバッグを抱えて、大泣きするお子さんを抱っこして。「やっぱり外出はやめようかな……」と自宅にこもり孤独感が生まれる。だから、イオンモールはすごく良いと思います。



行く動機が一つだけだと外出が大変で諦めてしまうけれど「美味しいものを食べよう」「食品を買おう」「ベビー服を見よう」「雑貨屋さんをチェックしよう」というように複数あれば、行こうと思いがやすいですね。さらに、私たちの「寝相アート撮影会」や「お誕生日会イベント」といったさまざまなイベントによって動機を増やしたいです。中でも「ファミリーベース2024」は、最大のイベントになりました。より多くの地域の



方に関わっていただくために、鈴木さんと一緒に地元の企業や学校にお声がけをしたり、モール内の専門店でコラボを提案したり。結果的に100以上のブースが並び、モール全体に一体感が生まれました。

鈴木:私も、150ほどの出展者にご挨拶に伺いました。それをきっかけに地元の企業からダイレクトに共創のご相談をいただくことも。もちろん「出展してよかったよ!」というお声もいただいています。

辻野さん:土岐市とイオンモール土岐が初めて共催イベントとして実施し、大変大きな反響がありました。参加者アンケートでは「また開催して欲しい」「子どもも親も楽しめた」などの声が集まりました。行政ブースも出展し「子育てに悩みを抱えている保護者と多く対話ができた」「新病院の周知ができた」など、市の子育て支援サービスを知っていただく、保護者の方のニーズを聞かせていただく良い機会となりました。

相談の入り口となり サービスにつながる 出口となるように

山本さん:「ときめっく」は、新しい「親子の居場所」です。この地で子育てをすることに誇りを感じていただける支援をめざし、2025年は「子育て支援者育成研修」をイオンホールで行います。支えられた人が、今度は支える側に。そんな循環がうまれたらと願っています。また、利用者との接点として私たちは独自のアプリも開発しています。「ときめっく」をきっかけに子育てママ・パパたちを多面的に支援し



Mamapli:「親子ひろばときめっく」の
混雑状況やイベント情報が確認できるアプリ



ていきたいと考えています。

辻野さん:「ときめっく」を通じて、誰にも相談できず困っている方や、同世代の子を持つ親とのつながりを求めている方が想像以上に多いことに気づかされました。イオンモールという子育て世帯が日常的に訪れる場所だからこそ、相談の「入り口」となり、専門家が必要に応じて支援サービスにつなげる「出口」の役割が果たせると考えています。2025年4月には「イオンシネマ土岐」もオープンしますよね。若い人たちが映画デートをして、結婚して土岐市に住みたいとなってくれたら……。



鈴木:そうですね! イオンモールが近くにある便利さや楽しさ、防災の観点での安心感が、土岐市に暮らすきっかけの一つになればうれしいです。「ときめっく」は、年間20,000人の方にご利用いただくまでになりました。これからも皆さんと地域への思いを共有し、さまざまな取り組みをしていきたいと思っています。



地域に関連するプロジェクト

さまざまな地域での取り組みの一部をご紹介します。

PROJECT | CASE 03

盛岡大学・盛岡大学短期大学部との 協働取り組み

イオンモール盛岡 | 岩手県盛岡市

盛岡の将来を担う地元の学生たち 地域共創パートナーとともに活動。

2023年に盛岡大学・盛岡大学短期大学部と産学協定を締結。学生が主体となり、館内でオープンキャンパスや文化祭、盛岡伝統さんさ踊り、部活の発表が行われました。継続して、地域・大学の魅力を地域の皆さまにお届けするとともに「若者が躍動する拠点の創造」をめざしていきます。



PROJECT | CASE 05

イオンモール白山自然学校

イオンモール白山 | 石川県白山市



ふれあい体験を通じて地域への愛着を育む。

市内全域がユネスコ世界ジオパークに認定されている白山市。地域に暮らす親子の皆さまに、地域への理解を深めながら愛着を育んでもらう機会として、白山の自然から採れた材料を使ったワークショップと、白山の自然を楽しみに行くバスツアーを開催しました。



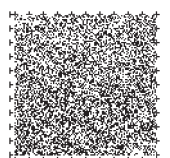
PROJECT | CASE 04

阿波踊り特別公演

イオンモール徳島 | 徳島県徳島市

伝統芸能を気軽に楽しんでいただき 地域の魅力の再発見につなげる。

お買い物の合間に「阿波踊り」を気軽に楽しんでいただくために、徳島県阿波踊り協会の協力のもと、館内で「阿波踊り」を実施。4日間で約4,400人の方が観覧されました。最後には地域の皆さまや観光客の皆さまが踊りの輪に加わり、踊り子とともに高揚感や楽しさを体感いただきました。



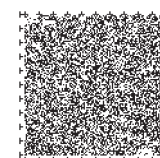
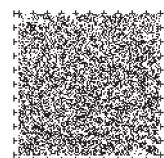
02

地域 | グローバル

アートやスポーツで心身を育み 世界のどこに暮らしていても 希望のある将来像が描ける未来

〔活動紹介〕

- 江夏の日常に無形文化遺産を | イオンモール武漢江夏 (中国・湖北省武漢市江夏区)
- 寧西街合同就職説明会 | イオンモール広州新塘 (中国・広東省広州市増城区寧西街)
- 全国ムエタイチャンピオンシップ2024 | イオンモール ビンズオンキャナリー
(ベトナム・ビンズオン省トゥアンアン)
- カンボジア王立芸術大学との文化芸術振興に向けた取り組み | イオンモール ミエンチェイ
(カンボジア・プノンペン市ミエンチェイ区)
- コミュニティ・クラス (文化の学習やスポーツ体験) | イオンモール ジャカルタガーデンシティ
(インドネシア・ジャカルタ首都特別州東ジャカルタ市)



江夏の日常に 無形文化遺産を

イオンモール
まちのコミュニティ
Regional community mall

どんなプロジェクト？

中国の人々が代々伝えてきた伝統文化を「無形文化遺産」と言い、江夏区には梁子湖の伝説、楚地菖蒲造景、舞龍金口草把龍や製紙など代表的な無形文化遺産が96あります。それらの魅力を地域の皆さまに浸透させ、保全意識を高めていただくことを目的にイオンモール武漢江夏では年間を通じてイベントを開催しました。

世代を超えて、文化を通じた地域愛を。
江夏文化の伝統を再発見する拠点になる。



春節・無形文化遺産演出 [江夏区文化館]
金口草把龍・長江中流武漢江夏金口地域で行われていた、1年の豊作を農地のわらで竜をつくって祝う儀式を、ダイナミックに再現しました。



開催地域： 中国湖北省武漢市江夏区

武漢市の中央を流れる長江の東側「武昌」エリア南部の新都市。2300年の歴史があり「楚天首県」とも呼ばれ、文化的な観光資源が豊富。武漢市の三大産業である自動車産業・ハイテク産業・ヘルスケア産業の工場や研究開発センターなどが誘致されており、地下鉄など交通インフラの整備も進んでいます。

ここがユニーク！

江夏文化館を中心に、9つの政府部門、8つの地域文化組織、24の大学との連携を実現しました。

開催施設：イオンモール武漢江夏

江夏の生活拠点の中心地に位置。大型公園を中心に銀行やオフィスなどが入る「ビジネスエリア」、江夏区政府などがある「公共サービスエリア」、テクノロジー企業などが立地する「企業研究開発エリア」の3つのエリアに囲まれています。

基本商圏：車20分圏 約39万世帯・
約143万人(居住者・就業者を合わせた人数)
出店店舗数：約260店舗(専門店舗)
敷地面積：約106,000㎡
駐車台数：約4,500台
オープン日：2023年11月1日



江夏区文化館 × イオンモール武漢江夏



江夏区文化館
じょ けいしょう
館長 徐 竟 翔 さま



イオンモール武漢江夏
しゅ さん
営業担当 朱 璿

江夏の無形文化遺産を守り 広めていくという使命感

徐さん：私は、芸術系の大学で油絵を勉強していました。北京で芸術活動などを行ったのち、地元である江夏区に戻り、武漢江夏文化館に勤めるようになりました。そして、長江周辺の歴史や文化を勉強する中で、武漢市江夏区の無形文化遺産を多くの人に知ってもらわなければならないという使命感を感じたのです。また、ただ知ってもらいだけでなく、さまざまな産業とコラボレーションし伝統文化の付加価値を高めること。その伝統文化が市場を広げて新たな消費場面を生み出すこと。そしてさらに

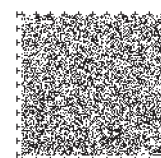
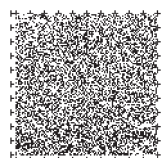
伝統文化の担い手たちを経済的にも支えていくこと。そういった伝統文化を中心にした好循環をつくる役割を果たしたいと思うようになりました。

朱：私たちはモール開業前に、江夏区文化館と旅行局の方から「江夏の無形文化遺産を広めるために積極的に活動しているが、もともと無形文化遺産に関心を持っている特定の人々にしか伝えられず困っている」という課題を聞く機会がありました。私たちが「江夏文化の魅力発信の拠点」となることができれば、地域の皆さまに知っていただき、文化発展にも寄与できると考えました。

徐さん：イオンモールがまだ建設中の段階で江夏文化館にも来ていただき、皆さんとは何度も意見交換をしましたね。その時に、イオンモールは集客力や宣伝力があるだけでなく、地域にどう貢献できるか、社会的な責任をどう果たしていくか、とても真剣に考えているのだと感じました。そのように信頼関係を築いていく中で、2024年の「江夏の日常に無形文化遺産を」の企画が決まりました。企画を行政に報告するとすぐに承認が下り開催が実現しました。

共創パートナー 江夏区文化館

1951年設立。江夏区の無形文化遺産の保護や市民文化活動の推進に力を注ぐとともに、無料の芸術教育講座や若者向け夜間スクールも運営しています。これにより、地域住民が中国の伝統的な祝祭や文化を学び、体験する機会を提供しています。





「文化と自然遺産の日」開幕式の様子

オンラインを含め、 年間を通じて20万人が参加 想像を上回る反響

朱: 今回の「江夏の日常に無形文化遺産を」イベントで特にポイントとして考えていたのは3つでした。

徐さん: はい。1つ目は若者に興味関心を持ってもらうこと。無形文化遺産を継承していくために、そして新しい価値を生み出していくためにも、若者へのリーチは欠かせませんでした。2つ目はイベントの告知と認知拡大の施策をしっかり考えること。できるだけ多くの人にイベントの存在を知ってもらうこと。それからメディアでどんな風に取り上げられれば無形文化遺産への注目が高まるかということ。それらのメディア戦略も重要なポイントだと考えていました。3つ目は無形文化遺産から経済的価値を生み出すこと。伝統文化がきちんと市場として機能し、さらに伝承者の皆さんが経済的に自立できること。それがとても重要だと思いました。

朱: 今回のイベントを通じて、できるだけ広範囲のエリアに向けて江夏の知名度を浸透させ、無形文化遺産と観光業などが繋がって江夏の交流人口の増加に繋がれば、と。それくらいのスケールで徐さんは考えていらっしゃいました。

徐さん: これまでも企業などとコラボレーションしたことはありますが「江夏の日常に無形文化遺産を」は、無形文化遺産に関するイベントのスケールとして最大規模となります。

朱: イオンモール武漢江夏のお客さまのうち、約60%は36歳以下の方です。つまり、ファミリーや大学生など若い世代に無形文化遺産を知ってもらい、触れ合いを通じて理解を深めてもらい、保護への意識を高めてもらう絶好の機会であると考えました。

2月の春節には展示や京劇、民族音楽会など、5月は体験教室を中心に実施し、6月は「文化と自然遺産の日」に合わせたビッグイベント、10月は学生を招いた公開授業と、年間を通じて行うことができました。

徐さん: 反響は予想以上のものでしたね。オンラインを含め、年間で20万人以上の方に参加いただき、政府の協力などもあって約40のメディアに取り上げられ、合わせて450万以上の閲覧数に達しました。

朱: 「文化と自然遺産の日」のイベントは、ネットで生中継が行われ約15万人が同時視聴という結果も出ています。その日から9日間、政府や大学と共同で、50のブースで無形文化遺産及び伝統文化をモチーフにしたデザイン商品の（中国語：文創商品）展示を行い、大いに盛り上がりました。



「文化と自然遺産の日」の来場者の様子



「文化と自然遺産の日」の来場者の様子

イベントに参加してくれた 若者たちの反応に手応えを感じて

朱: 若者がさまざまな無形文化遺産と楽しく触れ合っている様子に、私はとても驚きました。というのも、若者は伝統的なものに関心がないという印象があったからです。まさに、若い世代へ伝承の種を蒔くことにもつながったように思います。服飾を専攻している学生さんや子どもたちによるファッションショーも印象的でしたね。来場者の中にも、中国の伝統的な衣装を着て参加している方が見られました。

徐さん: 私も若者の反応がうれしかったです。イベントに参加し「江夏にはこんな無形文化遺産があるんだ」と驚き、そのあと江夏区文化館に連絡をくれる人も多くいました。また、ファッションの企画では新しいつながりも生まれました。武漢出身で雲南省を拠点に活動しているファッションフォトグラファーの紹介により、雲南省の方にもイベントに協力・参加していただくことができました。雲南省は、無形文化遺産の保護や継承・発展において先進的な取り組みを行っているエリアです。さまざまなユニークな試みを行っていて、私たちとしても学ぶべき点が多いと感じています。今回、雲南省の方々との打ち合わせや対話を通じて、とても刺激を受けましたし、新しいアイデアを得るきっかけにもなりました。特に、業界を超えたコラボレーション



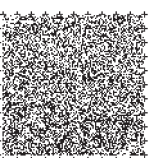
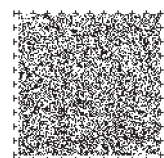
にはポテンシャルがあると再認識しました。私は個人的にも日本の文化に関心が高いのですが、日本の伝統文化である「浮世絵」がファッション業界とコラボレーションしている事例などもあり、参考になりますね。若者へのアピールは今後も最も重要な課題だと思いますので、積極的に現代的な生活と融合したチャレンジをしていきたいです。雲南省のような周辺の広域エリアとの関係や連携が生まれたのも、このような大規模なイベントを実行した副産物だと感じています。このネットワークを活用して、それぞれの地域の無形文化遺産の保護と拡大のため、また、江夏区の伝統文化を世の中に広げるため、相互交流していけると良いと考えています。

継続的に取り組むことの重要性 新しいアイデアを形にしてい

徐さん: イオンモールができたことで、

江夏区はより若者が集まる活気あふれるまちになったように感じています。これからも集客力を活かし、さまざまな取り組みをしていただきたいですね。例えば、モール内に無形文化遺産の常設展示や体験エリアを設けていただいて、伝承者によるイベントなどを定期的に開催できたら良いですね。また、一緒に文化発展機関を立ち上げられると、さらに可能性が広がります。

朱: ぜひ、一緒に考えていけたらと思います。イベントに参加いただいた地域の皆さまから「継続的に実施してほしい」というお声を多くいただいています。今回のような取り組みを通じて「地域の皆さまが地域を愛すること」に寄与し、結果的にイオンモールを愛していただくことにつながることを願っています。すでに、江夏区の無形文化遺産食品に出店していただき地域の皆さまに親しんでいただく、武漢市にある3つのモールと連携し、無形文化遺産の紹介・体験の機会をつくっていくなど、新しいアイデアが生まれています。流行の発信拠点であるからこそ、伝統の再発見拠点でもありたい。江夏区文化館や広域エリアのさまざまな組織とも連携してその役割を担っていきます。



PROJECT CASE 02

にんせいがい
中国 寧西街合同就職説明会

イオンモール 広州新塘 | 中国広東省広州市増城区寧西街

モールのあるエリアは国家級経済技術開発区として、ハイテク産業を中心に企業誘致が進んでいます。寧西街のみならず、増城区、黄浦区、東莞市からも来館いただいています。

企業と求職者の架け橋となり
地域経済の発展に貢献する。

どんなプロジェクト？

企業と求職者とのコミュニケーションの場を提供し、雇用促進と企業の雇用問題の解決、地域経済の発展に取り組んでいます。2024年は、寧西街道（労働所）と連携し、モール内の共有部で大規模な合同就職説明会を3回開催。累計で約360社が9,400件以上の求人情報を提供し、就職活動の指導や政府の関係政策の紹介なども行いました。



ここがポイント！

複数の部門が連携し、館内のチャネルやSNSなどを活用した広報活動を展開。その成果として、大学卒業後数年以内の熱意あふれる若い世代が多く参加し、ブース前には長蛇の列ができました。今後も、寧西街道（労働所）をはじめとする各政府部門との連携を深め、企業や求職者のニーズに応えられるより質の高い就職説明会を積極的に開催していきます。

PROJECT CASE 03

ベトナム 全国ムエタイチャンピオンシップ 2024



イオンモール ビンズオンキャナリー | ビンズオン省トゥアンアン

急速に都市化が進むエリアに位置し、住宅地、ビジネスゾーン、教育機関に囲まれています。地域の皆さまや観光客に向けたさまざまな文化イベントを実施し、地域の魅力を伝えています。

国家規模の大会を開催し
スポーツの振興を支援する。

どんなプロジェクト？

「ムエタイ」の魅力発信と、全国でトレーニングに励む選手のレベルアップを応援するため、ビンズオン省と連携し、館内で「ムエタイ」の全国大会を開催しました。29の省と都市から約400名の選手が参加し、期間中は18万4,000人以上が来館。館内はスリルと興奮に満ち、文化的な誇りを感じられる大会となりました。

ここがポイント！

外部パートナーや専門店とも協力し、国家規模の大会開催に成功。大会参加者の中から優れた選手が選抜され、国際大会や大陸トーナメントに向けたサポートを受けることができます。これからも、ビンズオン省との連携を継続し、全国的なイベント競技会を開催し、地域の皆さまや観光客に新たな体験と興奮をもたらしていきます。



PROJECT CASE 04

カンボジア カンボジア王立芸術大学との
文化芸術振興に向けた取り組み

イオンモール ミエンチェイ | プノンペン市ミエンチェイ区

首都プノンペンの副都心として開発が進むエリアにあり、人口増加が見込まれています。伝統文化の発信地として、地域の方にエンターテインメントや教育のコンテンツを提供しています。

伝統文化の発信地として
芸能の魅力を広げていく。

どんなプロジェクト？

若者は日頃、自国の伝統芸能に触れる機会が少なく、専門の演者も限られた場所しか自分の才能が披露できないという課題があります。そこで、政府によるカンボジア芸術の最高教育センター「カンボジア王立芸術大学」と連携し、学生による伝統的なクメール文化パフォーマンス、ダンス、演劇などの芸術ショーを毎月開催しています。



ここがポイント！

クメール文化を体験したいときに最初にイオンモールミエンチェイが思い浮ぶ、そんな存在をめざしています。定期的に毎回異なるパフォーマンスを実施し、ステージに近い席は開始2時間前から並び始めるほどお客さまから期待されています。これからも「エデュテインメント (Education + Entertainment)」というモールコンセプトのもと、さらに取り組みを強化し、伝統文化を次世代につなげていきます。



PROJECT CASE 05

インドネシア 文化の学習やスポーツ体験



イオンモール ジャカルタガーデンシティ | ジャカルタ首都特別州東ジャカルタ市

住宅建設や道路整備が進む、人口密度の非常に高いエリアに位置。親しみやすい空間づくりを大切に、さまざまな活動やプログラムを通じて地域コミュニティの活性化を支援しています。

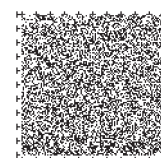
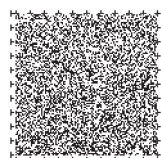
コミュニティと連携し
地域の文化と健康的な暮らしを支える。

どんなプロジェクト？

インドネシア文化の理解や健康的なライフスタイルの促進をめざし、文化の学習やスポーツ体験の機会を提供しています。具体的には、伝統的なダンスやパウンドフィット（全身運動）、インラインスケート、ブンチャック・シラット（伝統武術）などのプログラムを開催し、月間で約1,500人の方にお楽しみいただいています。

ここがポイント！

地域のコミュニティやインストラクターの皆さまと強力なパートナーシップを育み、創造性や情熱あふれるプログラムを提供しています。参加者の皆さまからは「自分の興味や才能を再発見できた」といった喜びの声をいただいています。今後も新しいプログラムを開発し、地域の皆さまの記憶に残る体験を提供していきます。



03

環境

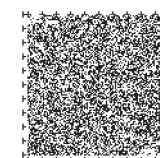
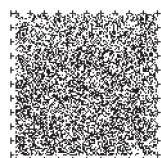
自然を感じ、学び、体験し、 地域の生態系や資源循環に 責任を持つ人が増える未来

〔活動紹介〕

- いきもののおうちをつくって学ぼう | イオンモール常滑 (愛知県常滑市)
- つながる庭プロジェクト～田んぼピオトープ～ |
イオンモール新利府 (宮城県宮城郡利府町)
- こどもSATOYAMAプロジェクト | イオンモール多摩平の森 (東京都日野市)
- サステナドライブ | イオンモール高岡 (富山県高岡市)



“暮らしの未来”をデザイン



いきものの

おうちをつくって

学ぼう



イラスト：岩田瞳さま

どんなプロジェクト？

地域の皆さまとともに、緑の豊かさやいきものを身近に感じられる場所をつくるプロジェクト。モール内の保育園児と一緒に、モール内の緑地に「トカゲのおうち」と昆虫の住処(すみか)「バイオネスト※」をつくり、地域の生態系について楽しく学びました。

※モール内の枝や落ち葉を活用した昆虫のすみか



地域の生態系について学び、
生物多様性の保全に貢献する。



[共創パートナー] エスチャイルりんくう保育園

イオンモール常滑内にある365日早朝から夜間まで受け入れ可能な認可保育園。学年の枠にこだわらない異年齢保育を取り入れ、子どもたちの成長を育んでいます。



イラスト：岩田瞳さま

子どもたちに「トカゲ」の生態をお話する導入のために描いた、岩田さんオリジナルのイラスト。温かみのある作風は「いきものを怖がるお子さんもいるので、イラストから徐々に写真に」という配慮から生れた。

開催地域：愛知県常滑市

古くから陶磁器産業が盛んな街。「常滑焼」は日本六古窯の一つに数えられ、歴史と伝統を感じる街並みが広がります。2005年2月に中部国際空港(セントレア)が開港し、国際都市としても発展を続けています。

ここがユニーク！

通常は石でつくる「トカゲのおうち」を、常滑市の伝統工芸品「常滑焼」の廃材を利用して製作しました。



開催施設：イオンモール常滑

伊勢湾から中部国際空港を臨む立地。モールコンセプトは「海と空を120%楽しむエンターテインメントパーク」。グローバル(グローバル+ローカル)な取り組みを推進しています。2016年2月にABINC 認証取得※。

基本商圏：車30分圏 約17万世帯 約48万人
出店店舗数：約180店舗(専門店舗)
敷地面積：約202,000㎡
駐車場台数：約4,200台
オープン日：2015年12月4日

※ABINC認証は、一般社団法人いきもの共生事業推進協議会が運営する、生物多様性に配慮した施設の緑地を認証する認証制度です。

エスベックミック×エスチャイルりんくう保育園×イオンモール常滑



エスベックミック株式会社
環境企画推進室
岩田 瞳 さま

イオンモール常滑
オペレーション担当
風見 琴子

エスチャイルりんくう保育園
園長
平田 裕也 さま

もっと地域の皆さまが
自然の豊かさを感じられる
場所をめざして

風見：イオンモール常滑があるこの地域は、埋め立てによって誕生しました。緑あふれる環境やさまざまないきものとの共生は、地域に根ざす私たちの手でつくりあげていく必要があり、重要な課題の一つでもあります。イオンモール常滑でも、オープン当初から屋外型エンターテインメントパーク「ワンダーフォレスト きゅりお」を設けていますが、まだまだ地域の皆さまが緑の豊かさやいきものを身近に感じられる場所になっていないのではないかという思いを抱いてきました。地域のために、地域の皆さまとともに何ができるのか。以前から、岩田さんたちと打ち合わせを重ねてきましたね。

岩田さん：そうですね。エスベックミックは、地域の生態系調査などを行い、生物多様性保全活動を支援しています。イオンモール常滑とは、オープン時の「イオンふるさとの森」植樹祭に向けた樹種の選定や当日のサポートを行ったのが最初の取り組みですね。この場所は、知多半島中央部の丘陵森林部からも3〜4km離れているので、いきもの生息空間の間をつなぐ移動経路作りや、

やってきたいきものたちが生息できるための工夫が必要。だからこそ地域の皆さまと協力しながら中長期的な視点で取り組んでいきたいと思います。そして、未来に向けた一つのきっかけづくりとして2024年度に企画したのが「トカゲのおうちづくり」と、モール緑地内の枝や落ち葉を使った「バイオネストづくり」ですね。

「トカゲってなに？」

絵本で調べ始めた子どもたち

風見：まずは、いきものに由来もするための準備が必要なのか……と驚きました。そして、いつも「きゅりお」で遊んでくれている園児さんにぜひ参加してほしいと考えて平田さんにご相談をしたところ、快諾いただきましたね。

平田さん：はい。子どもたちに特別な思い出をつくってあげられるのではないかなと期待しました。私たちは、ここのオープンと同時にモール内に保育園を開園し、2024年4月からは0歳から5歳までのお子さんを365日、5:30〜23:00まで受け入れています。保護者の方には、受入時間の長さだけでなく、立地の良さやお迎えのついでにイオンモールで買い物ができる利便性

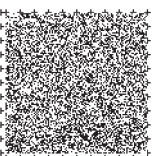
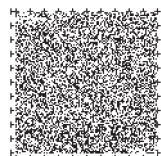
を感じていただけていると思います。一方で、自然と親しむという点では「きゅりお」で緑と親しめるけれど、いきものを見つける体験ができていませんでした。今回の企画について子どもたちに話すと「トカゲってなに？」から始まり、図鑑で調べる子もいましたね。そして、どんないきものなのかかわかると「おうち、つくりたい！」とイキイキとした笑顔が見られました。

ESPEC

共創パートナー

エスベックミック株式会社

地域の生態系を調査し、在来種苗・製品の育成、樹林や水辺、草地などの多様な生態系修復を手掛ける環境エンジニアリング企業。他に環境調節試験機器や植物工場事業も。



エスベックミック×エスチャイルりんくう保育園×イオンモール常滑

楽しむ子どもたちを見ながら
参加することで生まれた
次のアイデア

風見：岩田さんから「常滑焼の廃材を使ってトカゲのおうちをつくりましょう」と提案いただき、ワクワクしました。常滑市の工芸品を自然の中に取り入れるというのがユニークですね。

岩田さん：それぞれの土地の背景を大事にしたいです。イベント当日、子どもたちは「トカゲさんが来てくれるといいな」「どんな風に過ごすのかな」と言いながら頑張って材料を並べてくれました。そして、従業員の皆さんも楽しそうでしたよね！汗をかきながらノコギリで木を切って、枝をまとめて……と没頭する中で童心に返り、幼少期の話などで盛り上がっている様子が印象的でした。「鳥のモニタリング調査を発展させて観察会をしよう」「いきもの調査をしよう」など、アイデアも続々と。



風見：そうですね！これからも子どもたちや地域の皆さんがいきものに触れ合える機会をつくってきたいという思いを強くしました。

平田さん：ありがとうございます。私も、今回のトカゲのおうちづくりの続きができたと思います。



風見：今回のプロジェクトを、近隣の高校生を対象にしたSDGs講義で紹介しました。実際にトカゲのおうちを観察しながら熱心にメモをとってくれていて「買い物をする場所」であるイオンモールの新しい一面や思いを知ってもらうきっかけになったのかなと思います。

岩田さん：「こんなこともやっているの!？」という、ちょっとした驚きですね。高校生たちが家族や友人に話して、家や学校でもいきものの住処をつくってみる?となったら素敵です。

地域の皆さんとともに
緑地づくりを伝播させていく

風見：これからも地域の皆さんに自然を身近に感じていただけるように、さまざまな取り組みをしていきたいと考えています。まずはバイオネストを活用して土壌を豊かにし、昆虫たちの住処となるように。そうすれば、いきもの調査や虫取りなども楽しみたいですね。

岩田さん：これまでもイオンモールは、地域の皆さんとさまざまな共創を実現して

きたと思います。ぜひいきものとの共生においても、イオンモール常滑だけの活動にとどまらず、地域の皆さんとともに緑地づくりを伝播させ、エコロジカルネットワークができることを期待しています。



平田さん：「エスチャイルりんくう保育園」は特別な保育園だと思うのです。ほかの保育園はその子たちが大きくなったらあまり戻ることはないでしょう。ですが、ここは「イオンモールに来たから、保育園にもちょっと顔を出してみようかな」と思ってもらえる実家のような保育園をめざせるのではないかと感じています。今回の体験が、子どもたちの心の中にずっと残っていて話題になるかもしれないですね。「20年前は、トカゲとかいきものがいなくて住処をつくったんだよね」って。これからも皆さんと一緒に、素敵な体験を届けていけたらうれしいです。



環境に関連するプロジェクト

さまざまな地域での取り組みの一部をご紹介します。

PROJECT | CASE 02

つながる庭プロジェクト
～田んぼピオトープ～

イオンモール新利府 | 宮城県宮城郡利府町

稲作体験で五感を満たしながら
生物多様性について学ぶ。

参加者の皆さんが牛乳パック(ドトールコーヒーさま、果琳さま提供)に種まきをして育てた苗を持ち寄り、田植えを実施。稲刈りや東北特有の棒掛けでの乾燥、残った藁

を使った正月飾りづくりや、いきもの調査など1年を通じて五感を満たしながら自然について学びました。収穫祭では、農家(雁音農産さま)から絶滅危惧種である雁の保全や無農薬栽培についてお話しいただきました。



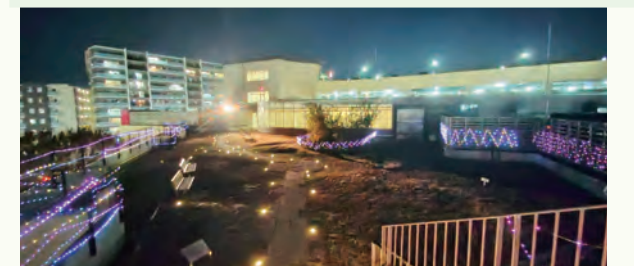
PROJECT | CASE 03

こども SATOYAMA プロジェクト

イオンモール多摩平の森 | 東京都日野市

地域の大学生と小学生の輪、
自然共生の輪を広げていく。

屋上ピオトープの活性化をめざす中で、明星大学理工学部の学生の皆さんから「小学生への教育の場」という新たな視点での活用法を提案いただきました。そして、学生の皆さんが講師となり東大和市立第八小学校の皆さんと一緒に屋上ピオトープで課外授業を実施。植樹や整備体験、ライトアップ準備などを行いました。参加された小学校では、体験を参考に自校でもピオトープを作成され自然共生の輪が広がるのを感じました。



PROJECT | CASE 04

サステナドライブ

イオンモール高岡 | 富山県高岡市

「誰かのために再利用する」
市内の資源循環を促進する。

サステナドライブとは「不要になったものを回収し、誰かのために再利用する」資源循環を促進する取り組みです。

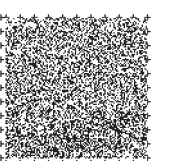
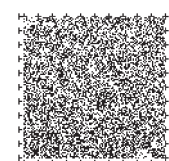


モール内で食品・絵本・衣料品などを幅広く回収したほか、高岡市のご協力で、小・中学生から絵本や食品の回収を募って市内の保育園・施設に寄付するなど新しい循環の輪がうまれました。今後もたかおかSDGsパートナーとのつながりを大切に、地域課題に取り組んでいきます。



まちの
いきもの+

衣料品常設回収
87
モール
で実施



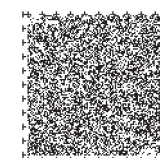
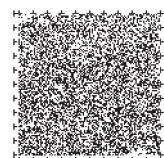
04

暮らし | Well-being

スポーツや運動を通じて 幅広い世代が健やかに団結し、 誰もが絆を感じられる未来

〔活動紹介〕

- 「北國ハニービー石川」のホームへ | イオンモール新小松(石川県小松市)
- 扶桑町走ろう会 | イオンモール扶桑(愛知県丹羽郡扶桑町)
- 恩賜 財団 済生会 富山県済生会高岡病院との取り組み | イオンモール高岡(富山県高岡市)
- ふだんクエスト | イオンモール羽生(埼玉県羽生市)
- その場でわかる! 歩行チェックチャレンジ! | イオンモール草津(滋賀県草津市)
- 懐話ふだ&FC刈谷ウォーキングサッカー教室 | イオンモール東浦(愛知県知多郡東浦町)



「北國ハニービー石川」

のホームへ

イオンモール
まちの健やか+
Health & Wellness mall

どんなプロジェクト？

女子ハンドボールチーム「北國ハニービー石川」とともに、イオンモール新小松内でハンドボール体験会やパブリックビューイングなどを行い、スポーツを通じた地域コミュニティづくりを行っています。



北國ハニービー石川の優勝報告会

日本リーグ10連覇の偉業を達成した北國ハニービー石川の優勝報告会を、イオンモール新小松の1階祭広場にて開催。ハンドボール体験や選手たちのトークセッションも熱気に包まれました。



開催地域：石川県小松市

石川県西南部に広がる、豊かな加賀平野の中央に位置。北陸の空の玄関口「小松空港」があり、2024年3月には、北陸新幹線の延伸に伴い「小松駅」が新たに開業。伝統工芸「九谷焼」の原料産地でもあります。

ここがユニーク！

モール内が、ハンドボール体験の場に！子どもたちが選手たちとキャッチボールやシュート体験を楽しみました。



開催施設：イオンモール新小松

「九谷焼」108枚を配したシンボルモニュメント「九谷五彩柱」を設置。小松市、小松菓子業組合との協働で実施する「こまつプリン百物語PRイベント」など、地域の魅力を磨き、発信する「究極のローカライズ」に挑戦しています。

基本商圏：車 北30分圏 南50分圏
約19万世帯 約51万人
出店店舗数：約150店舗（専門店舗数）
敷地面積：約128,000㎡
駐車場台数：約3,400台
オープン日：2017年3月24日

Life Design Developer

女子ハンドボール・北國ハニービー石川 × イオンモール新小松



イオンモール新小松

営業マネージャー

土屋 秀師

営業担当

岡田 咲希

北國ハニービー石川

選手

辻野 桃佳さま

選手

柿添 まどかさま

ヘッドコーチ

河合 辰弥さま

GM

宮本 和宏さま

小松市唯一のプロチームが
地域への愛着と一体感を担う
存在に

宮本さん：2024年9月からハンドボールの国内新プロリーグ「リーグH」が男女ともに始まり、女子は全11チームが熱戦を繰り広げています。サッカーやバスケットボールがプロ化によって盛り上がり競技レベルが格段に上がったことから、ハンドボール界全体が期待感を持って挑んでいます。

辻野選手：プロ化される前と比べて試合での演出などもかっこよくなり、これまで以上にプロ意識を持ってファンの方のために戦えています。

柿添選手：小松総合体育館のホームゲームは格別ですね！ファンの方の声援があると、モチベーションがグッと上がります。宮本さん：オープニングやハーフタイムには、地域のダンススクールや大学の皆さんによるパフォーマンスがあり、あたたかい雰囲気を感じますね。私たちは小松市唯一のプロスポーツチームとして、地域に脈をもちたいと考えています。その中で、2023年からイオンモールと多くの取り組みを行ってきましたね。

土屋：私たちも、お買い物の場としてだけでなく、地域の魅力を発信する場として、地域の皆さまが集うコミュニティとしての役割などを果たし、地域の皆さまを笑顔にしたいと考えています。ハニービーさんは、一

緒に地域を盛り上げ、コミュニティを活性化させることをめざす大切な仲間だと感じています。

イオンモールでの
イベントを通じて
新しいファンが誕生！

岡田：最初は「お仕事体験」イベントでした。地域の子供たちに、プロスポーツ選手と触れ合い、スポーツの楽しさを感じてもらう貴重な機会をつくっていただきました。

辻野選手：クラブチームなどで教えたことはあったのですが、未経験の子供がたくさん参加してくれるのは初めてでした。「ボールを投げるのが楽しい」「シュートを打ちたい」など、すごく楽しんでくれたのがうれしかったです。ハンドボールやハニービーを知ってもらうだけでなく、純粋に体を動かす楽しさを伝えられたかなと思います。

岡田：これまでにイオンモールでは、パブリックビューイングを4回、優勝報告会、壮行会を行いました。大きなサイネージに映し出される試合を夢中で観ている地域の方の姿に、私も喜びを感じました。

河合さん：「小松市に、こんなチームがあったんだ」と、初めて知っていただく方も多かったと思います。接する機会を重ねることで、選手を覚えていただいたりハンドボールの奥深さに気づいていただけたらいいですね。

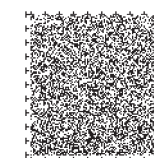
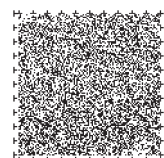
宮本さん：イオンモール新小松には、週末だと3〜4万人が来られると聞いています。そんなにも多くの人にワクワク体験をお届けできるなんて、すごいですよね。

辻野選手：イベントをきっかけに試合に来てくれる方が多いです。「あんなに激しいの？」「怖くない、大丈夫？」といったお声も(笑)。ハンドボール自体を知らなかったけれど、ハンドボール教室に通い始めたという方もいました。

河合さん：私は2024年12月からチームのヘッドコーチに就任しましたが、地域とのつながりが育まれているなと感じます。

共創パートナー
北國ハニービー石川

株式会社ハニーブースポーツが運営する女子ハンドボールチーム。日本リーグ10連覇、2024年は全日本社会人ハンドボール選手権大会や国民スポーツ大会で優勝を果たしています。



女子ハンドボール・北國ハニービー石川×イオンモール新小松

地域の人が
ハンドボールとふれあい
選手が感謝を伝えられる体験会を
柿添選手:「お仕事体験」の時のように、もっ
とイオンモールでハンドボール体験会がで
きたらと思っています。お買い物のついでに、
気軽にハンドボールを楽しんでいただけま
すし、私たちも地域の方とのふれあいの時
間を増やせたらうれしいです。



土屋:ぜひやりましょう!実は私の子ども
が高校からハンドボールを始めたんです。
息子の姿を見ながら父親である私も、ど
んどんハンドボールにはまって。息子を
きっかけに私がファンになったように、
接点があればファンが増えていくんだと
実感しました。そんなきっかけを、プロ
選手から得られるなんてすごく幸せなこ
とですね。

宮本さん:高校から始めたんですね!ふ
れあう機会を増やすことは、ハンドボ
ール界全体にとって大事なと思います。

「勝ち×価値」で
より地域で輝くチームへ

柿添選手:ハニービーに加入し、一人ひと
りが本当に勝ちにこだわっている最高の
チームだと感じています。先輩たちの姿
を追いかけて、私も選手として成長し
ていきたいです。



辻野選手:地域の皆さんの応援がエネ
ルギーとなり、頑張ることができています。
私たちが地域の方にハンドボールを通じ
て元気をお届けできたらと思います。

河合さん:ハニービーは、1975年の創設
からコツコツと築いてきた土台と恵まれ
た練習環境があり、高い意識でトレーニ
ングに励む選手がそろっています。これから
「地域の象徴」となり、市外・県外の方にも
「ハニービーを応援するために小松市に
行きたい」と思っていたら、私もヘッ
ドコーチとして尽力していきたいです。



宮本さん:2028年には、小松空港近くに
ハニービーのホームゲーム開催や地域活
性化の起点となるアリーナを含めた施設
の建設計画があります。より一層、地域の
ハニービーとして選手が輝けるように、
勝ち負けの「勝ち」と、価値観の「価値」、



その両輪でチーム活動を推進していきます。

土屋:新しい施設ができれば、ますます
ハニービーさんの存在が大きくなりますね!
小松市が取り組む人口減少の課題解決
や描く将来像は、スポーツを通じた地域
社会の活性化や健康推進がカギになりま
す。今後ハニービーさんと包括的連携協
定を締結し、中長期的な視点で共創して
いきたいと思います。



SPORTS *FUTURE*
—スポーツの魅力を、地域と未来へ—

イオンモールは、**82**のスポーツのチーム・団体と連携し、
スポーツをもっと身近にする活動をしています

暮らしに関連するプロジェクト

さまざまな地域での取り組みの一部をご紹介します。

PROJECT | CASE 02

富山県済生会高岡病院との取り組み

イオンモール高岡 | 富山県高岡市

館内で健康への興味関心を高め
地域の健康づくりに貢献する。

済生会高岡病院に協力いただき、週1回
看護師の方に健康相談ができる「まちか
ど保健室」、健康診断のチケットを購入
し済生会高岡病院で並ばずに健康診断
の受診ができる「ちょこっと健診販売機」
を館内に設置しました。イオンモール
ウォーキングコースを済生会高岡病院
監修のもと変更する計画も進めています。



PROJECT | CASE 04

その場でわかる!
歩行チェックチャレンジ!

イオンモール草津 | 滋賀県草津市



自然と健康になれるきっかけを
イオンモールで創出する。

健康寿命が地域課題の一つである滋賀県からのお声がけで、
立命館大学スポーツ健康科学部のカリキュラムへの組み込み
が実現。授業科目「イオンモールで自然に健康になれるプロジェ
クト」にて学生が考えた、歩行姿勢測定や姿勢改善アドバイス、
歩数がわかるオリジナル館内ウォーキングマップの配布など、
地域住民の健康への気づきが生まれるイベントを計2日間開催。
“お買い物ついでに”幅広い世代の約600名の方にご参加い
ただきました。

PROJECT | CASE 03

ふだんクエスト※

イオンモール羽生 | 埼玉県羽生市

「提供しているつもり」をなくし
多様な視点でサービス改善に努める。

館内の施設やサービスをユニバーサルデザインに即した
ものにするため、モール関係者が当事者6名の方と館内
外の設備・サービスを当事者目線で体験しました。課題を
「モンスター」と表したクエスト形式で行い、約100個の
課題を発見。その後の課題対策会議で具体的な改善案
にまとめました。

※「ふだんクエスト」は、栃電通が開発した多様な当事者との共創型の
課題発見ワークショップです。



PROJECT | CASE 05

かいわ
懐話ふだ&FC刈谷ウォーキング
サッカー教室

イオンモール東浦 | 愛知県知多郡東浦町

地域スポーツと共創し、“健活”コミュニティをつくる。

サッカークラブ「FC刈谷」の選手と館内でサッカーやウォーキングを楽しむ、
健康イベントを開催。さらに、選手と話しながら楽しく認知症予防ができる「懐
話ふだ」も行いました。多くのお子さまと保護者の方に参加いただき「FC刈谷」
の認知度アップにもつなげることができました。



扶桑町走ろう会

イオンモール
まちの健やか+
Health & Wellness mall

楽しみながら健康づくりができる
きっかけを増やしていく。

どんなプロジェクト？

地域の皆さまの体力づくりや健康増進を図ることを目的に行われる扶桑町の恒例行事「扶桑町走ろう会」を、2023年からイオンモール扶桑と共同で開催しています。



第42回扶桑町走ろう会

2024年11月に開催。約700名の方がランナーとして参加、応援の方を含めると1,000名近い方に集まっていただき、大いに盛り上がりました。また、館内1階でイオンモールモールウォーキングにも参加いただき、日常的にできる健康づくりをご紹介しました。

ここがユニーク！

通常は駐車場の目的以外で使用するのではないモール屋上駐車場やスロープを、マラソンコースとして活用。楽しみを交えた発想で地域とともに大会を成功させました。

開催施設：イオンモール扶桑

オープンから20年以上にわたり地域の皆さまに愛されている、扶桑町で最大級の商業施設です。地域の皆さまの日々の暮らしを支える「ちょうどいいモール」をコンセプトにしています。

基本商圏：車20分圏 約10万世帯、約25万人
出店店舗数：96店舗(専門店舗)
敷地面積：約91,000㎡
駐車場台数：約2,800台
オープン日：2003年8月9日

Life Design Developer

扶桑町×スターバックス コーヒー ジャパン×イオンモール扶桑



イオンモール扶桑
営業担当
松島 裕規

スターバックス コーヒー
イオンモール扶桑店 ストアマネージャー
横山 健太 さま

扶桑町 教育部生涯学習課
総合体育館長
中野 剛 さま

イオンモール扶桑
オペレーションマネージャー
秋長 克知

固定概念を超えて駐車場を健康づくりの場に活用

中野さん：扶桑町は「みんなの笑顔が かがやくまち 扶桑町」をめざし「健康づくり」を推進しています。2024年には愛知県内の自治体として初めて「げんきな免疫プロジェクト(※)」に参画するなど新しい挑戦も始まっています。イオンモール扶桑とは元気の免疫プロジェクトのキックオフイベントの協働実施などさまざまな取り組みをしてきた中で「扶桑町走ろう会」のご相談をしました。

秋長：安全上の理由から、これまでの場所で実施できなくなりお困りでしたね。40回も続いている町の大切な行事ですから、ぜひ力になりたいと考えました。モール1階の平面駐車場を使う案は、車路を封鎖するのが難しく……そんな時に「屋上は？」と。早速、中野さんに見ていただき、屋上での開催が決定。2023年は、一番長いルートで屋上3周とし、約500名の方に参加いただきました。好評だったのですが、もっと非日常のワクワクを感じていただくために、2024年は駐車場スロープを使って3階、4階を走っていただくことにしました。

松島：中野さんをはじめ扶桑町の方の協力

が厚く、大会当日も60名の方に運営のお手伝いに来ていただいて。

中野さん：安全第一ですので、町のスポーツ協力員の皆さんに交通誘導などの協力をお願いしました。

秋長：ゴール後の「コーヒーどうぞ」も喜んでいただけましたね！

横山さん：走ったあとでもホットコーヒーが人気で驚きました(笑)。スターバックスは、より地域に根差し、地域の皆さんとつながりながら地域課題の解決に寄与するような活動に全社的に取り組み始めています。今回、まさにそういったコンセプトのイベントに関わることができてとても良い一歩になりました。

※官民連携で「免疫の大切さ」を発信し、子どもから大人まで一人ひとりが「免疫ケア」で健康に過ごせる毎日の実現をめざすプロジェクトです。

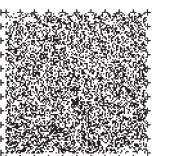
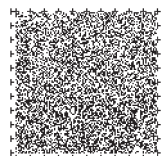
地域の皆さまの笑顔を思い浮かべ 創意工夫を続けていく

中野さん：2024年はイベント感が増し、お子さんからご年配の方まで、多くの笑顔が見られました。来年以降も、マイペースに楽しみながら健康や運動への意識を高めるきっかけづくりができたらと思います。

秋長：「扶桑町走ろう会」を通じて、改めてモールのアセットをさまざまな形で地域の課題解決に活用できることが分かりました。次回以降も、参加者の方にどのように楽しんでいただくか、どのようにモールで過ごしていただくかなど、アイデアを練りたいと思います。

横山さん：今回、イオンモールと扶桑町のコラボレーション・イベントに関わり、私たちスターバックスにとっても新しいアイデアのインスピレーションになりました。例えば私たちの店舗スペースを地域の皆さんのコミュニティ活動に使っていただくなど、新しい可能性もこれから模索したいと思います。そして何より、私が扶桑町に来て一番に感じるのは人の温かさです。「扶桑町走ろう会」をきっかけに、地域の皆さんと手を取り合って、扶桑町がめざす姿に向けて歩んでいきたいと思い新たにしました。

松島：扶桑町が大切にされている、みんなで支え合う健康づくりに、これからも継続して取り組んでいきたいですね。



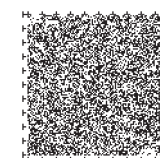
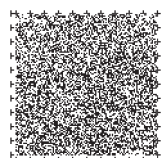
05

暮らし | 社会インフラ

もしもの時に備える防災力と 日常を支える公共サービス。 強くしなやかなインフラの未来

〔活動紹介〕

- 生成AIと実空間メタバースによるデジタル避難訓練 | イオンモールいわき小名浜(福島県いわき市)
- 飾磨小学校合同 命を守る! 自助・共助の避難訓練 | イオンモール姫路リバーシティ(兵庫県姫路市)
- レイクタウン防災フェス2024 | イオンレイクタウン(埼玉県越谷市)
- 広島市段原地域包括支援センター | 広島段原ショッピングセンター(広島県広島市)
- 佐野新都市行政サービスセンター | イオンモール佐野新都市(栃木県佐野市)
- 大垣市南部サービスセンター | イオンモール大垣(岐阜県大垣市)
- つがる市立図書館 | イオンモールつがる柏(青森県つがる市)
- 富津市立図書館 | イオンモール富津(千葉県富津市)



生成AIと実空間

メタバーズによる

デジタル避難訓練



どんなプロジェクト？

最新のデジタル技術を活用した避難訓練。避難を支援するスマホアプリと避難所でアドバイスをするAIアバターを住民の皆さまに体験していただきました。

防災DXを取り入れ、安心して
住み続けられる地域をつくる。



デジタル避難訓練(2024年3月3日実施)

イオンモール周辺の住民の皆さま39名を含む140名が参加。リアルタイムで周囲の危険状況がわかる「避難支援スマホアプリ」を確認しながら避難を行いました。



開催地域：福島県いわき市

1年を通じて温暖な気候のいわき市は、“東北のハワイ”と称されています。モールがある小名浜地区には水族館や遊覧船が楽しめる「アクアマリンパーク」があり、年間を通してさまざまなイベントも実施される賑わいのある港町です。

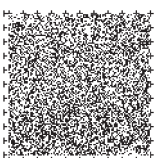
ここがユニーク！

災害対策本部が避難の様子をリアルタイムで確認。アプリからはリアルタイム災害情報も報告可能。アプリを通じて災害の状況に合わせた避難誘導ができます。

開催施設：イオンモールいわき小名浜

「小名浜港背後地震災復興土地画整理事業」地内に位置。いわき市の掲げる「復興のシンボル」として、防災モールとしての機能を担うとともに「活気溢れる都市拠点づくり」に寄与することをめざしています。

基本商圏：車45分圏 約14万世帯 約37万人
出店店舗数：約130店舗(専門店舗)
敷地面積：約44,000㎡(隔地駐車場含む)
駐車場台数：約1,300台
オープン日：2018年6月15日



いわき市×東北大学 災害科学国際研究所×イオンモールいわき小名浜

イオンモールいわき小名浜
オペレーション担当
廣瀬 萌々子いわき市 危機管理部 災害対策課
主任主査 兼 地域防災係長
本田 文徳 さま東北大学 災害科学国際研究所
津波工学研究分野
特任教授
大石 裕介 さまイオンモールいわき小名浜
オペレーションマネージャー
川口 洋樹「逃げ遅れゼロ・災害死ゼロ」
防災力向上への挑戦

本田さん：いわき市では、東日本大震災や令和元年東日本台風により、甚大な被害が発生しました。その経験を教訓とし「逃げ遅れゼロ・災害死ゼロ」の危機管理モデル都市をめざして防災力向上に努めています。そのためには「自助」「共助」「公助」の力を高めて結集すること、そして産学官の連携が重要になります。イオンモールいわき小名浜とも、防災協定を結んでいますね。

川口：そうですね。私たちは、津波発生時における緊急一時避難施設、情報発信拠点としての役割を担えるモールづくりを行っています。またハード面だけでなく、2021年から半年に1回、いわき市や近隣住民の皆さまとともに津波避難訓練を実施しています。熱心な参加者が多く訓練の手伝いを感じる一方、より実践的で防災意識を高められる工夫が必要だと感じていた時に、今回の実証実験のお話を伺いました。

大石さん：防災は、ほかの分野に比べてデジタルの活用が遅れています。私は、生成AIやメタバーズといった最先端の技術を導入し防災のあり方を変革していく、防災DXの推進を目的とした研究開発を行って

います。その中で、リアルタイムで周囲の危険状況が分かり避難経路が矢印で示される「避難支援スマホアプリ」と、避難所生活のサポートが受けられる「AIアバター」について、実際に住民の皆さまに使用いただき、実用化をめざす上で有効性の検証を行いたいと考えていました。

地域にお住まいの方や
観光で訪れた方にも
安全・安心を届ける

大石さん：東日本大震災を振り返ると、避難して安全を確保するのは個人の行動ではあるものの、本田さんもお話されていましたが「共助」、つまりコミュニティが重要だということが分かります。そういう観点で、地域の皆さまが集う場であり、地域との共創を掲げているイオンモールと一緒できないだろうか考えたのが、ご相談のきっかけです。

川口：お話を聞いた時は、とても光栄なことだと。いわき市にお住まいの皆さまや観光で来られる方の安全・安心を守ることや、日本の防災DX推進の一助になれる可能性を感じました。

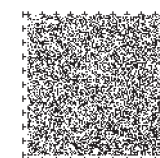
本田さん：私も期待感が大きかったです。

今回の「避難支援スマホアプリ」は、アプリの画面に避難経路が矢印で示されるシンプルなものなので、とても分かりやすいのが良いですね。住民の皆さまの効率的な避難や、観光で訪れた方など地理に詳しくない方でも速やかに避難できる点が特長であり、この地域に適した訓練であると考えました。



「避難支援スマホアプリ」画面

実空間に情報を付与できる、実空間メタバーズ。「避難中に危険な場所が通知されると、いわき市の災害対策本部に連絡が入り、その情報をもとに安全な避難経路を矢印で示す」仕組みを準備し、避難訓練当日に検証を実施。



いわき市×東北大学 災害科学国際研究所×イオンモールいわき小名浜

「またやりたい」
最新技術の活用が
訓練の付加価値に

本田さん:訓練に向けて、大石先生や川口さんと密にコミュニケーションを取りながら準備を進めましたね。また、スマートフォンを見ながら避難する「歩きスマホ」になるため、いわき東警察署の方と事前協議を行い、当日もイオンモールの皆さんや警備の方にサポートをいただき、安全管理を徹底しました。

川口:住民の皆さまへの事前説明会では、幅広い年齢層の方に前向きにチャレンジいただけるよう、分かりやすい説明を心がけました。実際、アプリをインストールするところ以外はスムーズでしたね。



リを使って避難された方は、そうでない方と比べて歩く距離が200m以上短く、効率的に避難できたという結果が出ています。先進的な取り組みをいわき市で実施し、防災DXを推進する必要性を確認できたこと、それを多くのメディアを通じて全国の皆さまに届けられたことが喜びです。

大石さん:川口さんを中心にイオンモールの皆さんが分かりやすく説明や誘導してくれたので、住民の皆さまはもちろん、メディアの方にも訓練の狙いが正しく伝わったのではないのでしょうか。

川口:災害時はパニックが想定されるので、より一層、発信力や統率力を高めていきたいです。

防災力向上へ
これからも挑戦は続く

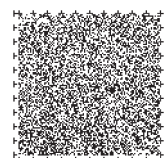
本田さん:これからもいわき市の防災力を高めるために、防災DXを含めて挑戦を続けていきたいと考えています。そして、地域の活性化はもちろん、防災の観点でもイオンモールと連携していければと思います。

川口:今回いわき市の職員の皆さま、小名浜

消防署、地域の消防団、東警察署、いわきコンピュータ・カレッジや福島高専の学生さんなど、多くの方たちと力を合わせて大きなトラブルもなくスムーズに運営できたことに安堵しています。今後とも、地域の皆さまとともに挑戦し、防災訓練の新しいスタンダード構築につなげられたらと思います。私は全国転勤の可能性がある身ですので、行く先々で今回のような挑戦をしたいと思います。大石先生、引き続きよろしくお願いします。



大石さん:ぜひよろしくお願いします。今回被災経験から防災に力を入れているいわき市の皆さまとともに実施し、感想や意見をいただけたことが一番の成果です。そして、各地域のイオンモールで今回のような新技術を活用してもらえれば、日本の防災を変えられるのではないかという気付きがありました。技術は、まさに日進月歩。いかに現場の課題に結びつけて防災を変革していくか、私も挑戦を続けていきます。



暮らしに関連するプロジェクト

さまざまな地域での取り組みの一部をご紹介します。

PROJECT | CASE 02

避難訓練・防災フェス



万が一の災害を想定したリアルな体験を通じて地域の皆さまとともに防災意識を高める。

飾磨小学校合同 命を守る! 自助・共助の避難訓練

イオンモール姫路リバーシティ | 兵庫県姫路市

2024年11月、これまで職業体験などの交流がある飾磨小学校の教員・児童の皆さまとともに、津波避難ビルに指定されている当モールへの避難訓練を実施しました。当日は、高学年の子が低学年の子と手をつないで静かに避難しており、モール社員も避難受入の課題を確認しながら無事に700名の避難を成功させることができました。



レイクタウン防災フェス2024

イオンレイクタウン | 埼玉県越谷市

子どもから大人まで、楽しみながら防災の大切さを体感できる市民参加型防災イベントをイオンレイクタウン全館(mori、kaze、LakeTown OUTLET、イオンスタイルレイクタウン)で毎年5月に開催。2024年は、越谷市消防局をはじめ、行政、地域団体、企業など約40団体のご協力のもと、2日間で約8万人(累計)の方に参加いただきました。



共創パートナー：特定非営利活動法人ピーグッドカフェ 副代表理事 堀田 晃弘さま

PROJECT | CASE 03

さまざまな行政サービス



“お買い物ついで”に行政サービス手続きや相談、学びを深められる場所をつくる。

広島市段原地域包括支援センター

広島段原ショッピングセンター | 広島県広島市



大垣市南部サービスセンター

イオンモール大垣 | 岐阜県大垣市



佐野新都市行政サービスセンター

イオンモール佐野新都市 | 栃木県佐野市



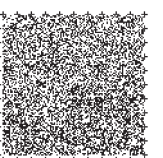
つがる市立図書館

イオンモールつがる柏 | 青森県つがる市



富津市立図書館

イオンモール富津 | 千葉県富津市



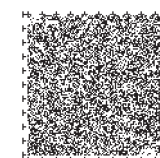
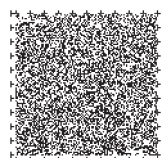
06

ひと

誰もが自分らしく働きながら 成長し続けられる環境で、 安心してキャリアを築ける未来

〔活動紹介〕

- イオンモールアルムナイネットワーク | イオンモール採用・育成部
- アスリートセカンドキャリア採用 | イオンモール採用・育成部
- 従業員休憩室 | イオンレイクタウンkaze(埼玉県越谷市)/イオンモールいわき小名浜(福島県いわき市)



イオンモール

アルムナイ

ネットワーク

イオンモール
まちのコミュニティ
Regional community mall

どんなプロジェクト？

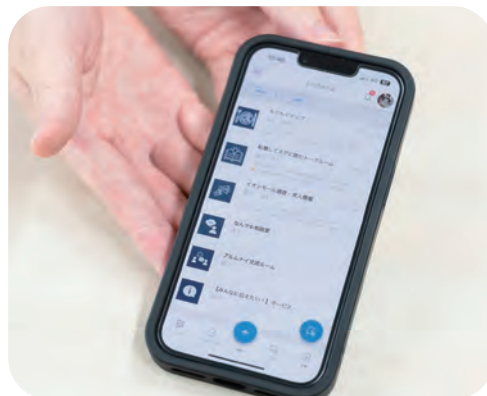
アルムナイ（退職者）とのつながりを強化し、ネットワークを構築するため、新たにSNSを開発。ネットワーク構築により、さまざまなバックグラウンドや異なる価値観を互いに認め合いながら、新たなつながりやビジネス協業に向けたアイデア・機会の創出をめざします。

アルムナイ（退職者）との
ネットワークを構築し
新たなつながりの創出をめざす。



イオンモールホームカミングデー

2024年9月、全国各地から9名のアルムナイに参加いただき、初のオフラインイベント「イオンモールホームカミングデー」を開催しました。



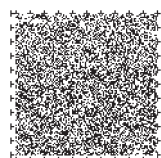
2週間に1度の割合で配信されるニュースレター。アルムナイからは「福利厚生の制度に変更があったら教えてほしい」など積極的な反応がある。

ここがユニーク！

イオンモールから定期的に当社に関わる情報や採用情報などを発信していくだけでなく、交流の場を提供し、アルムナイ同士の双方向のコミュニケーションを図ります。

2024年6月にコミュニケーションサイト「イオンモールアルムナイネットワーク」をオープンし、2024年12月時点で80名以上が登録。さまざまなチャットルームでアルムナイ同士の交流がうまれています。

2週間に1度のペースで投稿されるニュースレター。読んだアルムナイから欲しい情報のリクエストが届くため、運営側の新たな気づきにつながっています。



多様・多彩なひと × イオンモール



イオンモール
管理統括部 採用・育成部長
岡本 章世

イオンモール
管理統括部 採用・育成部
採用グループ
小松 優太

ワーク・イン・ライフ
働くことも、人生の一部

私たちは、採用活動を通じて多様な人材との出会いをめざしています。そして「地域とともに『暮らしの未来』をつくる」という経営理念の実現に向けて、働く人たちが活躍し、会社の成長だけでなく、その人自身の成長や自己実現につなげていくことを大切にしています。働くというも、人生の一部。イオンモールでは今、ワーク・ライフ・バランスではなく、ワーク・イン・ライフと表現しています。人生と仕事を分けて考えるのではなく、人生を通じてやりたいことを、仕事でも叶えていくことが大事であると考えています。

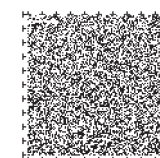
「イオンモールの強みですよ」
アルムナイの方から得た気づき

皆さんご存知のように転職市場が活況で、当社でも自己都合による離職率が4%近くになっています。数字だけを見るとネガティブに受け止められるかもしれませんが、労働組合のアンケートによると「会社に対して不満がある」という退職理由は減少傾向にあり「外の世界でチャレンジしたい」などポジティブなものが増えています。さらに「外に出て、イオンモールの良さに気づいた」と

いった声が聞こえてくるようになりました。イオンモールと接点を持った人たちと前向きな関係でつながり続けることで、会社になかなかな風を取り入れられるのではないかと、そのためにもっと時代や価値観の変化に対応した仕組みがあっても良いのではないかと、そういう課題意識を感じていました。そこで、2024年6月にスタートしたのが「イオンモールアルムナイネットワーク」です。これは、イオンモールとアルムナイ、そしてアルムナイ同士がコミュニケーションを図れるSNSです。新しい一歩を踏み出した皆さんとの関係性をはぐくみ、新たなつながりやビジネス協業に向けたアイデア・機会の創出、希望があれば再入社につながっていくものです。

オープン後、順調に登録者数が増える中で「一度、集まってみたいよね」という声があり、オフラインイベント「イオンモールホームカミングデー」を開催しました。そこでは、アルムナイの今を応援し、アルムナイ同士をつなぐのを支援すること。制度面などを含めて今のイオンモールを知ってもらい、フィードバックをもらうこと。さらに、退職時に言えなかったネガティブなことがあれば教えてもらい、人事制度などに活かして

いくこと。大きくこの3つを大事にしました。特に印象的だったのは、フィードバックです。例えば「このSNSは、発案から実施まで3〜4ヶ月ぐらいで進めたんですよ」と話すと、ある方は今の職場と比較しながら「そのスピード感は、イオンモールの強みですよ！」と言われたのです。イオンモールのことを知り、外の世界も知っているアルムナイからの意見は貴重であると実感しました。この交流を採用グループに閉じていたらもったいないので、2年目以降もつながりを深めながら、他部署や社員とのコラボレーションも実現できたらと考えています。イオンモールの社員は地域課題解決への意識が高く、退職してからも行政や地域に携わる仕事をしているアルムナイの方が多いです。つまり、イオンモール出身の皆さんと共創しながら地域貢献をめざすことができるのです。「地域共創なら、イオンモール」というプラットフォームのような役割を果たすことができれば最高ですね。



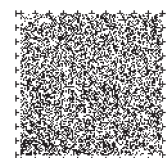
ウェルカムバック採用は「おかえりなさい」という気持ちで

「イオンモールアルムナインネットワーク」と同時に開始したのが、当社を自己都合で退職された方を対象とする「ウェルカムバック採用」です。2025年3月時点で、再入社した社員が3名います。当社のキャリア採用は年間30名程なので10%近くを占めていることになります。

当たり前ですが「退職＝裏切り」というような時代ではありません。外に出たことでイオンモールの良さを再発見し、再入社を希望してもらえるのは、大歓迎。制度の名称も「おかえりなさい」という気持ちを込めて「ウェルカムバック採用」に決めました。実は、ストレートに「おかえりな採用」という案もあったのですが……(笑)。



専用のSNSにはニュースレターや求人情報のルームのほか、アルムナイ同士が自由に交流できる場などさまざまなルームが用意されている。



カルチャーマッチングができていて、イオンモールで勤務していたときに培ったスキルがあり、さまざまなフィールドでの経験や知識を活かしながら再び活躍いただけるので、ご本人にとっても、配属先など受け入れる側にとっても良い取り組みだと感じています。また、配属先の若手社員がキャリア相談をした際に、ご自身の経験をもとに社内外を含めた可能性の広げ方などをアドバイスしてくれるなど、社員にとってプラスだと感じています。

フレンドのような関係性をはぐくむ絆採用

最後に「絆採用」についてご紹介します。私は新卒採用をしている中で、せっかくイオンモールの理念に共感いただき当社としても内定を出した方と、内定辞退によって関係性をゼロにしてしまうのはもったいないと感じていました。ゆるやかに関係性をはぐくみながら、また「イオンモールで働きたい」と思ってもらえたときにスムーズに応募につなげられたら……内定辞退者にもアルムナイのような取り組みができるのではないかと考えたのです。アルムナイが「ファミリー」なら、絆採用は「フレンド」のようなつながりをめざしています。「ファーストキャリアは違う会社だったけど、次はイオンモールで」となれば、うれしいですね。2025年卒以降の方を対象

に始めたのですが、6割近くの方がつながりを希望してくれています。そのほか「つながり」をキーワードにした採用として「社員紹介採用」もスタートしています。



チーム・イオンモールで仲間づくりと共創に挑む

これからの採用活動は、社員の皆さんを巻き込みながら「チーム・イオンモール」でチャレンジしていきたいと考えています。さらに言えば、採用活動は人材確保に留まらず、採用に対する考え方や取り組みを通じて新たなアプローチや社会課題を認知いただくこと、社外含め共感いただいた方とともに社会に価値を提供していくことができるのが理想です。選ばれ続けるイオンモールであるために私たち人事グループが「どうしたらできるだろう」「まずはやってみよう」という精神でチャレンジを続けていきたいと思っています。



人財に関連するプロジェクト

さまざまな地域での取り組みの一部をご紹介します。

PROJECT | CASE 02

アスリートセカンドキャリア採用



地域に根ざすアスリートを地域共創の担い手に。

スポーツのプロ化が進む中でアスリートの引退後のセカンドキャリアが社会課題の一つになっています。そこでイオンモールでは応募しやすいように採用の入口を明確にした「アスリートセカンドキャリア採用」を開始。地域に根ざしてスポーツに取り組んできた方を「地域共創人材」として採用し、行政や地域の窓口やヘルス&ウエルネス分野の担当として活躍いただくことをめざします。

PROJECT | CASE 03

従業員休憩室



イオンモールで働くすべての人の声に耳を傾け、快適に働ける環境を整える。

イオンモールでは、専門店の皆さんがイキイキと働ける環境づくりに取り組んでいます。ここでは、2つのモールの従業員休憩室のリニューアル事例をご紹介します。

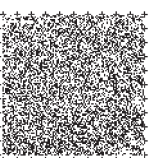
1. イオンレイクタウン kaze | 埼玉県越谷市

2024年9月に「日本一の休憩室」をめざしてリニューアルしました。イオンレイクタウンのコンセプト「感性」「高揚感」「非日常」を踏襲し、空港のラウンジのような高級感のある内装でありながら、銭湯のお休処のような居心地の良さを共存。「横になれるスペースが欲しい」という専門店従業員の声を活かし、靴を脱げる畳スペースや仮眠スペースを設けました。サービスレベル向上アンケートでは、休憩室の項目で大幅に得点が向上しました。



2. イオンモールいわき小名浜 | 福島県いわき市

2024年10月にリニューアル。いわき市に根づく「ハワイ」感のあるデザインに仕上げました。従業員休憩室の名称「Link Station “Lea Lea(レアレア)”」は、つながりを持てる場所(Link Station)となり、疲れた体と心を楽ししく・気楽にできるように(“Lea Lea”(ハワイ語で幸福、気楽にの意味))という願いが込められています。「周りの視線が気になる」という改善希望をもとに座席を工夫、今では「おしゃれで、ずっとここにいたい」という声も寄せられています。

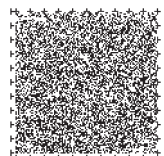


地域を超えたムーブメントが、日本や世界で共鳴し合う未来

〔活動紹介〕

- こども将棋王決定戦
- 全国高等学校書道パフォーマンスグランプリ
- イオンモールのクールシェア・クーリングシェルター指定登録
- まちの発電所
- イオンモールウォーキング

“暮らしの未来”をデザイン



PROJECT CASE 01

こども将棋王決定戦

まちの
コミュニティ

日本の伝統文化の支援、発展に貢献する風習が根づいた地域をつくる。

プロジェクトの開始	2015年10月	2024年度 実施モール数	10モール
延べ参加人数	約10,000人(応募数) 約5,000人(参加数)	参加人数	約780人

どんなプロジェクト？

全国の子どもたちに日本の将棋文化を伝え、将棋の楽しさを体験してもらう全国イベントを開催しています。初心者でも参加できる交流戦初級コースは、一般的な大会開催数が少なく、貴重な真剣勝負の場として好評です。また、モール内でお買い物をしながら子どもたちが将棋を頑張っている姿が見られてうれしいという声もいただいています。

ここがポイント！

イオンモール天童で実施していた大会を、3回目から全国大会に発展。これからは各地域の将棋連盟に協力いただきながら大会を盛り上げ、将棋の普及・地域連携につなげることをめざしていきます。



PICK UP

イオンモール天童 | 山形県天童市

将棋駒の生産量日本一「将棋のまち」として有名な山形県天童市で決勝大会を開催しています。大会前後に観光を楽しまれる方が多く、天童市から喜びの声をいただいています。今後も天童市と一緒に大会を盛り上げ、天童市の魅力を全国にお届けしていきます。

PROJECT CASE 02

全国高等学校書道パフォーマンスグランプリ

まちの
コミュニティ

伝統文化を探究する若い力を応援し、新文化の創造発展に寄与する。

プロジェクトの開始	2021年9月	2024年度 実施モール数	13モール
延べ参加人数	約6,200人	参加人数	約1,800人

どんなプロジェクト？

書道パフォーマンスの全国大会開催を通じて、日本の伝統文化である書道の本質を磨きながら新しい書道の魅力を探求し、新文化の創造発展に寄与することをめざしています。エリア大会から決勝大会までを実施している唯一の書道大会です。

ここがポイント！

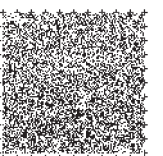
2015年に中四国大会としてスタート。2021年より全国規模へと拡大し、2024年度の第4回大会ではエントリー校が100校を突破しました。大会では、高校生たちが練習の成果を発揮できて仲間とともに感極まる姿や迫力あるパフォーマンスに、モール全体が感動に包まれています。



PICK UP

能登復興応援 書道パフォーマンス

2023年度の優勝校である仙台育英学園高等学校から能登半島地震の復興を応援する“書道パフォーマンス”を行いたいという声を受けて開催を決定。その想いが広がり各地から約16校が参加。全国7会場から復興の願いを込めたパフォーマンスをお届けしました。



PROJECT | CASE 03

イオンモールのクールシェア・クーリングシェルター指定登録



熱中症の危険をなくし、地域の皆さまの体と心の健康を守る。

プロジェクトの開始	2024年6月	延べ参加人数	—	参加人数	—
クールシェア実施モール	136モール	クーリングシェルター指定登録数	116モール	※2025年3月27日時点	

どんなプロジェクト？

屋内型モールの利点を活かし、地域の皆さまに「暑い日は、冷房を消してイオンモールで過ごす」というライフスタイルを提案。2024年より環境省と連携し、熱中症特別警戒アラート発表時の指定暑熱避難施設「クーリングシェルター」に登録されました。

ここがポイント！

熱中症対策が急務となっている今、当社が避難施設として手を挙げていくことが重要だと考えています。これからも発信力を高め、暑さをしのぐためにモールにお越しいただき、涼しさと楽しさを感じていただくことで、地域の皆さまの体と心の健康につなげていきます。



PICK UP
イオンモール上尾 | 埼玉県上尾市

長年愛されていた上尾市内の「さいたま水上公園」のプールが2022年に閉鎖。そこで、地域の皆さまに夏を楽しみながら涼める場をお届けするため、モールの芝生広場にウォーターライダーなどで遊べる「あげおウォーターパーク」を夏期限定でオープン。14,000名を超える方に来場いただきました。

PROJECT | CASE 04

まちの発電所



モールで使う電力は自分たちでつくる、
地産地消の再生可能エネルギー創出。

プロジェクトの開始	2022年秋	2024年度 実施モール数	約60モール
発電所数	1,390カ所	2024年発電量	116百万kWh

どんなプロジェクト？

地産地消の再生可能エネルギーを創出し、モールで使用する電力は全てCO₂を排出しない電力でまかなうことにより地域の皆さまから選ばれるモールをめざしています。

ここがポイント！

広大な敷地・大きな建物を有するモールの特徴を最大限に活かし、屋根の上や壁面などに太陽光パネルを中心とした発電設備を導入。さらに、耕作放棄地を中心とする遊休地を活用した環境負荷の少ない低圧太陽光発電所を全国に展開。発電所数は全国約1,390カ所に上ります。

PROJECT | CASE 05

イオンモールウォーキング



館内を楽しく歩いていただき、健康的なライフスタイルを支える。



イオンモールアプリ

お得で便利なイオンモールアプリは、モールウォーキングでも大活躍。週間歩数の全国ランキングやグラフで一目でわかるウォーキングデータも見ることができます。

アプリダウンロードは
こちらから



プロジェクトの開始	2018年	2024年度 実施モール数	141モール
延べ参加人数	約117万人 ※2025年3月6日時点	参加人数	約25万人

どんなプロジェクト？

地域の皆さまの健康的なライフスタイルをサポートするために、全国のイオンモール館内にウォーキングコースを設置し、季節や天候、時間に左右されず、お買い物しながら安全に運動を楽しんでいただいています。

ここがポイント！

「健康的でよりオトク」な館内での過ごし方を提案しているのがユニークなポイントです。館内に設置されたウォーキングポイントで、歩いた距離とカロリーを計測。そして、イオンモールアプリ内のウォーキング機能を利用することで、歩いた距離に応じてWAONPOINTが当たる「トコくじ」を引くことができます。

地域の皆さまとともに、
暮らしの未来を創造する

ショッピングモールの役割が日々変わりゆく今、

私たちは地域の皆さまと手を取り合いながら、

持続可能な地域の未来に貢献する「地域共創業」を目指しています。

「お客さま第一」の想いを胸に、地域とともに歩み、成長していくこと。

それが、私たち自身の力にもなっていくと信じています。

国内外に展開するイオンモールの各地域では、

地域特有の課題や多様な期待が存在しています。

だからこそ、その地域ならではの声に耳を傾け、一緒に考え、
ともに動いていくことが重要だと考えます。

私たちが大切にしているのは、

地域の未来を地域の皆さまとともに育んでいくことです。

これからも、地域の皆さまと一緒に、

より良い暮らしの形を描いてまいります。

イオンモール株式会社 代表取締役社長

大野 恵司



会社概要

社名	イオンモール株式会社
設立	1911年(明治44年)11月
資本金	42,389百万円(2025年2月末現在)
事業内容	大規模地域開発及びショッピングモール開発と運営 不動産売買・賃貸・仲介【国土交通大臣(4)第7682号】
従業員数	5,611名(2025年2月末現在)

基本理念

お客さま第一

経営理念

イオンモールは、地域とともに
「暮らしの未来」をつくる
Life Design Developerです。

経営ビジョン

アジア50億人の心を動かす企業へ

コーポレート・メッセージ

ひと、まちも、きらきら。

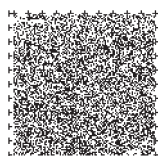


イオンモール株式会社

〒261-8539 千葉県千葉市美浜区中瀬 1 丁目 5 番地 1

TEL: 043-212-6348

<https://www.aeonmall.com>



CUDマークはNPO法人
カラーユニバーサルデザ
イン機構により、認証され
た印刷物、製品等に表示
できるマークです。



2025.05